謹賀新年

郷土水巻の発展を祈る

町長　大貝五十三

助役　安部一三

収入役　永沼武雄

町議会議員（議席順）

議長　西尾司

副議長　白石俊雄

議員　福原幸吉
松田重右衛門
原福次
大場重九郎
河野常男
本田健次郎
船津武麿
矢野恵壮
永沼一朋
美浦晴比古
松島朝久
岡崎杢次郎
椿明
森田保雄
江藤一正
石岡芳衛
副田久雄
吉井繁樹
井手利雄
藤田金次郎
伊藤時雄
前田忠藏
入江誠
今井正
中村芳房
藤崎広志
本多福治郎
原田富穂

役場職員

総務課長　久保田勝馬

税務課長　武尾友敏

経済課長事務取扱　船津嘉壮

教育民生課長　赤星忠臣

戸籍課長　大野正登

土木課長　日高清美

外職員一同

教育委員（順不同）

委員長　嶺武雄

委員　渡辺幸広
米岡常蔵
高橋次生
松田重右衛門

教委事務局

教育長　藤崎弁蔵

社会教育委員

公民分館長

外一同

学校職員

水巻高等学校長　小曽我清太郎

教頭　石田英二

水巻中学校長　近松一好

教頭　永沼孑

杁小学校長　久野七生

教頭　井口亘

頃末小学校長　山崎季敏

教頭　原田保

下二小学校長　江藤小平

教頭　吉田久敏

外一同

消防団

団長　糸山徳一

副団長　金子猛

外一同

駐在員

立屋敷　尾上久

伊佐座　永沼好道

二　勝原治一

下二　豊沢徳男

吉田ノ一　本田信人

〃二　佐々木義雄

〃三　安藤香

頃末　渡辺俊太郎

杁　太田喜志

古賀　栗田諭

樋口　住吉梅一

猪熊　江藤忍

新生街　杉本リン

福利課　糸山徳一

杁宮ノ下　渡辺幸広

二礦労務課　鳴海健治

鯉口区　金子猛

高尾区　佐藤利次

中央区　持永辰雄

一礦労務課　坂井重夫

吉田区　岡部保丸

片山区　松尾熊次郎

一礦社員区　森野義臣

古賀区　士師康雄

梅ノ木区　伊藤秋蔵

三礦労務課　友岡健

高松区　前田正二

五礦労務課　日野利広

常盤区　川添定継

農業委員会

会長　井地益夫

会長代理　福田金雄

委員　永沼一朋
岡本善美
小田賢雄
入江七造
豊沢政種
大場重九郎
梶山武
沢辺甫
佃一美
大場光郎
副田久雄
原田富穂

民生委員　豊沢志登
増田清次
柴田敏夫
佐々木義雄
吉井勇
渡辺俊太郎
室井貫蔵
住吉梅一
安藤兵麿
島田宗一
浦田鶴一
西岡進
松本孝行
松井為一
仲野隆盛
桑原昇
本田時雄
光木操
金森安太
小椋礼治

学童作品審査会

農協法実施七週年記念行事

農業協同組合法は、昭和二十三年八月一五日、従来の農業組合法が法定解散となり、新らしく現在の様な農民の自主的組合を生んだのでありますが、本年は恰度七週年を迎えて、去る十二月初め頃よりこれが記念行事として町内小中学校生徒を対象に、農協と農家の一致繁栄を強調する為の作品の募集が計画されていましたが、この応募作品に対する審査会が十二月十一日農協本部で行われました。（午後一時—五時迄）入賞状況は次の通りです。

審査風景

ポスター

一等　水中三年　梶山　博孝
下一校一年　三尾　晴樹
〃　二年　坂梨　鶴吾
〃　四年　豊永　佳子
頃末校一年　ほりのせいご
〃　四年　松井　明
〃　六年　川野　澄生
杁校　六年　寺田　和彦
二等　水中三年　池辺　豊彦
〃　〃　原　俊文
下一校一年　永松ゑみ子
〃　二年　黒沢　健一
〃　四年　坪内　勉
〃　六年　宮窪不二男
杁校五年　島野　光江
〃　六年　谷口　勲
頃末校一年　きたかえこ
〃　四年　武谷　繁三
〃　六年　小川　一紘
三等　水中三年　大野　綾子
下一校一年　博人
〃　二年　藤沢　博信
〃　四年　岡本　憲二
〃　六年　杉原　健治
杁校五年　田中　秀勝
〃　六年　宮田　淑子

作文

一等　水中三年　江藤　孝明
下一校　藤沢　敬子
頃末校　船津　直日
二等　下一校　石田　昭子
頃末校　高橋　澄子
三等　下一校　船津　洋子
頃末校　大山　貞夫

標語

一等　下一校　坂梨みづゑ
利用利用でのび行く農協
二等　下一校　永沼　順子
さあきまった　農協一本だ
三等　下一校　坪内　勉

書道

一等　下一校五年　榎　敏
二等　頃末校六年　柴田　征洋
杁校　六年　豊福　秀子
三等　下一校五年　黒木　敏夫
頃末校四年　山本　昭子
〃　六年　豊沢　良江
〃　六年　岡　宣征
杁校　五年　小椋　末子
〃　六年　吉谷　和子

なお応募規定としては
県←郡←町
小学校各学年毎に一等、二等
中学校　一学校で一等のみ
町内としては各学校各学年より三点（三等迄）を撰び出すことに定まっております。

尚、審査陣は水巻高校長を審査長に推し、同校教諭二名、教委事務局より係員一名、農協組合長、専務並びに空関技師等都合七名。

因に農協の組織を紹介しますと、中央に全国農業協同組合、県に県農業協同組合連合会、地方に県農協連支部が各郡に設置されている町村には町村単位の農業協同組合がそれぞれ設置されている。又その事業態は、各々四つの部門に分れている。即ち信用、購売、販売、指導の部門であり、全国の場合は全農連、全購連、全販連、全指導連、県の場合は、各々県何何連合会、市町村の場合は、例えば水巻農協信用部……購、販、指導部等の名称となっております。但し県指導連は昭和二十九年八月機構改革にて解散となり、現在は県農業協同組合中央会として発足して居ります。

遠賀道々案内（抜萃）

去る十一月二十六日ラヂオ（NHK）を通じ、私達の町を広く全国に紹介しましたが、あの放送の民謡の一部を詳しく各位に紹介致しましょう。この一篇は明治三十五年十二月、当時遠賀郡若松町に居住していた林繁樹氏の作歌です。当時のよすがを知る良材かとも思います。

一、元筑前は十五郡
中に遠賀は最大郡
西は宗像北は海
東は豊前に隣りして
南鞍手にさかひせり

二、抑此地に行幸の
古書に見えしは神武帝
仲哀神后斉明や
天智安徳日本武
懐良嘉仁二親王

三、明治の初年三十と
又大小区村かずは
九十三と呼ばれしを
町村制の実施にて
十九とこそは成りにけれ

四、境内開け土地広く
平地つゞきて山遠く
河の運漕亦宜くて
名所旧跡いと多し
いざ行き道のしるべせん

五、先づ中央の折尾駅
鉄道交叉の便ありて
郡衙事堂税務署や
銀行支店に郵便局
戸口は日日に繁昌す

六、此れより西に十四丁
浅川温泉浴場は
客舎の構造美麗にて
園池草木はなやかに
四時のながめも亦よろし

七、西に日峰となりにては
麻生の城址過ぎ行きて
大君山を弔へば
安徳帝の行在所
袂に露をおきぞひぬ

新年と希望

助役　安部一三

正月と云う月は自然に決ったものか、人が決めたものかその由来は知らぬが、今となっては動かせない我々の生活過程に於ける一つのとり決めである。

二十九年も慌しいうちにくれて、此処に三十年を迎えることになった。

新年ともなると総てのものに新味を感ずる、大昔からの太陽も元旦には初日となり、古井戸の水も初水といわれ、その他初夢等気分を新にしようとするのは我国人の生活哲学とでも称すべきか。

年始の挨拶と年賀状の交換かんと屠蘇と、三日間をのんびりするがそれもだらしないではなしに、身も心も折目を正している所に味がある。

正月の佳さは、ひとわれ共に皆一様にやすんでいると云う心易さにもある。その昔、中国の淮南子のことばに『行年五十にして四十九の非をさとる』とあります。正月にはこれを機会に誰もが考えることは『今年こそ』の覚悟である。天性の非を知ってであろう。此の事は正月に限ることでもないのであるが、新しきを追う心、新規まき直しの心から、正月をチャンスに思いたつのであろう。

何れにせよこの思い立ちは、正月のよい所である。凡そ人として希望を持たぬものはない。第一が生きることである、次によりよき生活ののぞみであろう。これ等人の共通のものであるが、この外あれも此れも果てしはない。

希望はその人の立場々々によって千差万別である、然しこれを如何にして達成するかと云うことは、これ容易ならぬ共通の難事である人間は希望をもてる間はまだ生きる価値がある、希望は大がその人に与えたる慾望だからである。然かも一つの望みが叶えると、また、次から次にと果てしないのがこの世界の常である。これあってそ、個人としては生き甲斐と楽しみを生み、それが延いては社会の進歩発展に貢献できることになる希望とか慾望とは常に上に上にの一途を辿る。

『行き着けばまた新しき里の見え』この句はガン研究の世界的権威故山極勝三郎医博の詠草である。場所は異うかも知らぬが、内に包まれてある血液の流れは、われ人の心の琴線に触れるものあるを感ずる。

さて今年の私も若干の希望をもつものである、公人としてのわれくの仕事量は予算で決められているのであるが、金のかゝらない事から而かもいつでも出来ることから着々実行したい。（今までもおこなわれている事ではあるが）

一、職場を清潔にする
二、吏員の健康を保つことに努める
三、応待をよくする様努める。
四、吏員間のチームワークをとることに努める
五、人格の向上につとめる
六、公平で正しい仕事をする
七、経費を極力節約する
八、仕事を追かける様努力する

ありふれた事乍ら、今年は今年なりに新規まき直して大いにやり度いと思っている。

書いて見てどれを採っても難しいことばかりである。独りで可能なことは一つもない。これ等のことを達成することによって、多くの人から喜ばれることであるならば此れを実行するに瞬時の気をゆるせ得るであろうか。

凡て事をなすは形よりも精神力である、人間の魂を通しての表現でなければならない、これ即ちしんけんにである。

しんけんにやる事は如何なることでも神聖なりと信ずる。神聖なるおこないは、獅子の如く勇ましく不純を伴なわないからである。

今や石炭界は未曽有の不況にみまわれ、そのあおりを受けた本町の財政は苦難の途を辿ることになりました。

山峻しくとも、星の光をたよりにでも、こすべき山は越えなければならず、相ともに手を採って三十年を乗りこしたいものである。

年末偶感

日炭高松礦業所長　坂本辰衛

この町はその九〇パーセントが炭砿で働いて居る者の町である。従って炭砿の盛衰が町の盛衰でもある。私は非才にして過去七年間高松の経営を担当している。終戦後の混乱から近隣の町村より一早く町らしい町に生長してきた。これは丁度炭砿が歩いた途を従いて来て居る様なものであって当然のことである。私はいつも私の家の下の町を眺めることが楽しみである。次から次と新しい家が建って行く、立派な道路が出来、それに添って町らしい店が出来て行く、実に愉快である。炭砿も斯く日々成長していると思うからである。

嘗てないと言ってよい位のあの頃の炭砿の好況も僅かの間に不況のドン底に這入って出炭の制限と云うことになった。これは容易ならざることである。どんな企業でも減産をして収支を償うものは有り得ない、まして炭砿は年々自然条件に遠ざかり、これが若返りに多額の投資が必要である。勢い減産で収支を償う外名案はない。ましてや将に五砿一島の企業の完成を目前にしてのこの不況である。私は今も私の部屋から町を眺めるともなく眺めて居る。この町もこの住民も総て炭砿と云う世帯の中に在る。この不況がうまく乗り越せなかったらこの町は何処かの町村の様に暗いものとなるであろう。

来春には地方議員や首長等の改選がある。次の時代を担うということは安易なことで乗り切れるものではなかろう。いい人材を選んで貰い度いものである。それにも増して私の責任は更に重大になって来た、この町ももっと立派な住みよい暮しよい町にする為には立派な炭砿とせなければならないからである。私等の町をよくする為に来る一年を全力を尽し度いと念願してやまないが、幸い私には健康がある。

靈樹

立屋敷の公孫樹えんぎ

立屋敷部落の八劔神社に、日本の霊樹として通っている、公孫樹（へ長寿霊樹録大正三年版）が、乳房（気根）を垂れて、遠賀の歴史を物語る様にお宮の社をかこんでうっそうと樹立っています。

この公孫樹の由来は第十二代景行天皇の皇子日本武尊が熊襲征討の際、船をこの立屋敷地域に泊められ、仮りの宮を建て、滞在されるうちに、夜毎あわれな衣打（きぬた）の音をきかれ音のあるじをと言うことになり、呼ばれたのが有名なあの砧姫で、もともと都の地で大宮仕えをしていたが、人のつげ口で罪を着せられ、この立屋敷に流されてあったもののこと、そこで此の部落に仮宮をいとなまれてあった間、尊はその姫を宮仕としておられていたが、愈々賊を平げて復たこの部落を訪れられた節、公孫樹を樹えて此の樹の芽の出る頃都に還ることにしょうと言って、姫と公孫樹とに別れをおしまれたもので、即ち日本武尊のお手植のものであります。

その後年々繁茂して枝幹より乳房の如きもの多く垂れて現在の様に大きくなっています。

八劔社も祭神は勿論、日本武尊と砧姫とを合祀してありますが、この公孫樹の件で言い伝えられている事で、或る日、神の御つげで「世の婦人で乳汁のない方で此の樹の皮を授りなば必ず乳汁多く出すべし」とありました事から醍醐天皇の御弟清氏の妃乳少なく甚だ悩みぬいていられたが、この神の御宣託を聞かれて延喜十四年はるばるこの地まで樹皮を受けに下られさっそくその樹皮を煎じて服用されて、お乳が豊富に出て喜ばれたとのことであるが、以来各地方の困った母親にも凡くこの樹皮をお受けして救われてある模様で遠賀地方は申すに及ばず現に嘉穂田川の方面でも実験談があるとのこと

因にこの霊樹は地上六尺の周囲、四十尺高さ七十尺余樹令一、八〇〇年余

又砧姫は郷土人形として、本年文化祭を期して一個二十円で売り出されました。

本年こそ充実を期せん

町体協事務局　大貝生

皆様、明けましてお目出度う御座居ます。本町の体育協会は昨年五月再発足して、始めての新年を迎えるわけですが、この輝かしい一九五五年の年頭に際して、町広報を通して皆様にお目にかゝる機会を得ました事を光栄に存じます。

そこで今日は、体育協会としての抱負を赤裸々に申のべて皆様の御批判と御鞭撻を得たいと思う次第であります。そもそも体育協会と言うのは町民の手によって、町民のためにに町民の生活に結びついた体育運動を普及し、明朗濶達な町民を育成し、郷土建設の基礎をつくると言う事を目的としているのであります。そこで、この目的を達成する為に、協会では町民体育運動の根本方針を審議確立し、町民の体位向上について充分調査研究を行って、少なくとも次の様な事業を行うと言う事にしているのであります。

1町内の体育運動団体の育成発展を図り、相互の連絡融和及指導
2体育大会その他、体育運動にかゝる各種事業の実施及援助
3体育運動施設の計画及実施
4体育運動資材の研究調査及購給斡旋
5体育運動の宣伝啓発指導及奨励
6体育運動に関する刊行物の発行並に斡旋
7体育指導並に体育愛好者の養成指導及検定

然し乍ら、以上の事業も満足にやるには、莫大な経費が伴なわなければ到底出来得ないのです。わずかばかりの寄附金と、町の補助金のみによって運営している本町体協の現状では、とても無理であります。町補助金の増額も、関係者は口を揃へて機会ある毎に要求しているのですが、地方自治確立途上にある本町の財政状態を考える時、これも亦無理の言えない所があるのです。と言って体育の重要性を考える場合、全く放置する事も出来ない状態なのです。そこで私達体育関係者は、将来に希望を持って、今は定められた経費の範囲で最大の効果をねらって各々の事業をやっているのです。昨年やった体育行事もそう言う意味で不行届きの所は多々あったかと思いますが、昨年の行事は、体協が再発足して以来始めて経験するものばかりで、それが初期の目的を達成するに効果的であったか否かと言う事は皆様の厳正なる御批判のもとに深く反省しなければならないのですが、行事の運営方法等は別として、本年も各種目別覇者決定戦、地区対抗排球大会、町内駅伝、少年野球大会は是非続けたいと思っています。そして体育協会の再発足を機会に、永年続けて行き、昨年より今年、今年より来年と一歩一歩前進し、もっともっと盛大にして充実した伝統を築きたいと考えています。勿論その運営に当っては、広く皆様方の御意見を拝聴し、実際に皆様方とむすびついたものにしたいと思っています。

その他の事業についても、出来る限り経費のねん出と運営の工夫に努力を払い、初期の目的達成の為奮斗したいと思います。どうぞ皆様の絶大なる御支援と御協力を御願いします。

立屋敷に幼稚園

水巻町幼稚園と名づけ

―四部落対象―

町部立屋敷白旗方禅師（長専寺住職）は旧ろう二十七日届出完了で愈々水巻町部の幼稚園を開かれることになりました。

対象としては地域柄先づ、二、下二、伊佐座、立屋敷の四部落の幼児教育のための思い立ちであり、三才から六才までの（就学前幼児）幼児教育として学校教育法第七十七条と第七十八条とに従って設立されるのです。

その目的としては、幼児を保育し適当な環境を与えることと心身を発達助長することになっています

場所は立屋敷二〇八番地、長専寺本堂及びその境内です。

開園予定日は小学校三学期始業と同期

状況は学級数二組で、〃松〃〃梅〃定員は松組二〇名、梅組三五名計五五名

園長一名、教諭一名、助教諭一名

尚保育料は五百円程度

因に幼児教育として現に他部落では町部児童であっても地域的に条件が許せば、一昨年来会社の方に入園して極めて喜ばれていますがこの四ケ部落としては、遠賀川そいの点在部落である為、何としても新しくこういった施策を思いたたねば到底幼児の環境をうまくするすべがなく白旗師の強い決意のもとにやっと幼稚園が生れた訳であります。

一九五五年の新春を迎えて

水巻町婦人会長　小林直子

水巻町の皆様明けましてお芽出度う御座居ます。

昭和三十年の年頭にあたり町婦人会の過去の追憶と将来の希望を聊か申述べて見度いと思います。

省みれば去る二十三年五月に終戦後第一回の総会を催し、当時戦前と雲泥の転廻を致し、婦人参政権或は男女同権の法律は布かれ婦人の地位は外面的に格段の向上をしましたが、さて教養の点に、思想の点に於ては婦人の地位と平行した実質的向上はなかったと思います。但し急激の地位の向上と共に婦人議員選出、婦人解放問題及び教養の修得等、しきりに叫ばれました。

郡内にも当時町議として当選された人もあります。如何に男女の権利は同様になっても、伝統的に受け継いだ智識・識見は遂にその実を結ぶ事を得ず再び声は下火となって参りました。

但し婦人自らが己れの価値を認める事が出来たのはこの時からです。これより自覚に待つ教養講座が始まり現代の文化界に即応した識見技能は年と共に向上して来ました。只今では実質を本体とする家庭設計が出来、文化活動が行われる様になりましたが、言わずもがな社会の流れに順応した教養も自覚に俟つ積極的態制となって参りました。この時に当り図らずも昨年四月、前会長豊沢百々野様の御苦心による婦人会経営の後を継ぐことになりました。薄識浅才の私が如何にしても重大なこの任務を果たすことが出来得ましょうか。皆様の厚い同情を全身に漲る御援助を衷心より御願いします。

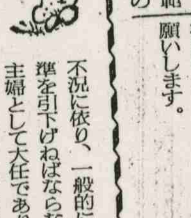
時恰も国家的デフレ政策と砿山の不況に依り、一般的に生活水準を引下げねばならないのは主婦として大任であり、又社会の不況にともない子女の養育に、又青少年の育成に多大の困難が生じて来たと思います。しかし滞りなく流れる川の如く社会は日進月歩進展いたし今年こそ国家全体を挙げて新起一転の時となりました。己一個を見つめて懊悩している時ではありません。

お互いに心を合せて困った人を温かい心で助け合い、自立合理化に依って生活を維持し、先づ明かるい家庭の中心となり、心の溶け合った歩調で部落の時局運動の推進となって戴き度と思います。

如何に歩みは鈍くとも各人の揃った歩調から公明選挙は始まり進歩的生活改善は生れます。水巻町婦人会の基準は公民館運営に則り、現代の思潮に即応した婦人の教養を一歩々々と高めること、社会教化運動の推進となること、且つ又青少年と連系を充分に保ち、共に向上の一路を辿る事を希望します申すまでもなく凡て和を以って解しなければなりません。現在一千名を越える婦人会員の皆様、心と力を合せて一丸となって健全なる水巻婦人会を建設して戴きます様にお願いします。こゝに佳き新春を寿ぎ併せて愚見の一端を申し添えまして皆様の御指導と御援助を切に期待いたします。

新年偶感

水巻町商工会企画委員長　本田信人



昭和二十九年の滔々たるデフレーションの波に押し流されて、当町四百の業者と三千の家族は嘗ってない苦難の道をあえいできた。併も大きな資本に依る濫売と、政治力によって援助される或る種の機関の発展、露店商人の進出、近接都市商店の整美化、等々によって町内業者としては不振の一途を辿っている。

生活権は脅かされ労働基準法なんて以っての外である。

政治にも顧みられないプロレタリアート、それは零細業者である不肖私達も戦後に於ける商工会の再組織と遠賀信用金庫の設立等によって業者の発展に多少なりとも歩調を整えているものの残念ながら私達業者としての政治えのつながりを持たない。此の事は私達業者にとっての大きなマイナスだと思う。業者として、「良い品を安く売り、サービスを良くする」此の原則は絶対に動かせない必須要件である。

そして此の原則論によって営業は個人的に一応成り立って行くであろう。併し政治によって左右される所の時勢の大きな波は決して支える事は出来得ない。

私達零細業者の今後生きて行く上に於ての残された途は業者自体がもっと政治に目覚めて、もっと政治に接近すべきではないでしょうか。それには個人々々の業者が商道に則った相互扶助の精神によってより強くより一層の団結をかためなければならないと思う。

そこで未だ嘗てなかった政治性不況の年、昭和二十九年を肝に銘じて明け行く新年こそ不屈の正しい商道に推進して行く可く思いを新らたにするものであります。